

北海道 1 0 0 名山 9 座 一気 登り

計画書

## 北海道 100 名山 9 座を一気登り



### 北海道エリア一覧

No.	山名	エリア	標高	難易度	体力度
001	利尻岳	北海道	1719m	★★	★★
002	羅臼岳	北海道	1661m	★★	★★
003	斜里岳	北海道	1547m	★	★★
004	阿寒岳	北海道	1499m	★	★
005	大雪山	北海道	2290m	★★	★★★
006	トムラウシ山	北海道	2141m	★★	★★★★
007	十勝岳	北海道	2077m	★★	★★
008	幌尻岳	北海道	2052m	★★★	★★★★
009	後方羊蹄山	北海道	1893m	★	★★

## 約3週間かけて北海道の100名山9座の登頂計画書

### 日程

・2017 夏 8～9月

### 行程

- ・9座から1座への逆コース
- ・幌尻岳 2052m以外の8座は登山口からのワンデイピストン
- ・羊蹄山～幌尻岳～十勝岳～トムラウシ～大雪山～阿寒岳～斜里岳～羅臼岳～利尻岳

### 新日本海フェリー…舞鶴～小樽へ 約1日



時間

行き

00:30発～20:45着 約20時間

帰り

23:30発～21:15着

船名

はまなす

運賃(片道)

5m未満…約36000円

6m未満…約43000円

一人当たり…約15000円

・姫路から舞鶴港…舞鶴自動車道経由で約156km…約2時間

### 北海道の初日 車移動 1.5時間

- ・小樽港～比羅夫へ移動…1時間15分(67km)「国道393号線」経由
- GPS>北海道虻田郡倶知安町比羅夫 (半月湖野営場) テント泊





3日目 幌尻岳 2052m 1泊2日 登山&車移動 10時間

北アルプスの剣岳に肩を並べる難易度の高い北海道日高山脈最高峰の幌尻岳

・登山ルート 渡渉があるので沢靴と予備の靴下 2足必要

振内コース 片道 15.5 km×2 約 31 km 約 12時間

とよぬか山荘から林道ゲートまでシャトルバス (往復 4000円) 寝袋、食料必須

林道ゲート～電力取水施設～渡渉～幌尻山荘 (泊)～命の水～幌尻岳山頂～幌尻山荘～ゲート 幌尻山荘 (素泊 1500円、沢靴をデポ) ☎01457-3-3568



・車移動 GPS>北海道上川郡美瑛町白金 (登山口 展望台P) 車中泊かテント泊  
時間>3.5時間 距離約 150 km



#### 4日目 十勝岳 2077m 硫黄沢コース 登山&車移動 9.5 時間

##### ・登山ルート

硫黄沢コース 片道 5.5 km×2 約 11 km 約 6 時間

展望台 P～吹上分岐～避難小屋～昭和火口～十勝岳山頂～ピストン



##### ・車移動 GPS>北海道上川郡新得町トムラウシ温泉 登山口 P (車中泊かテント泊)

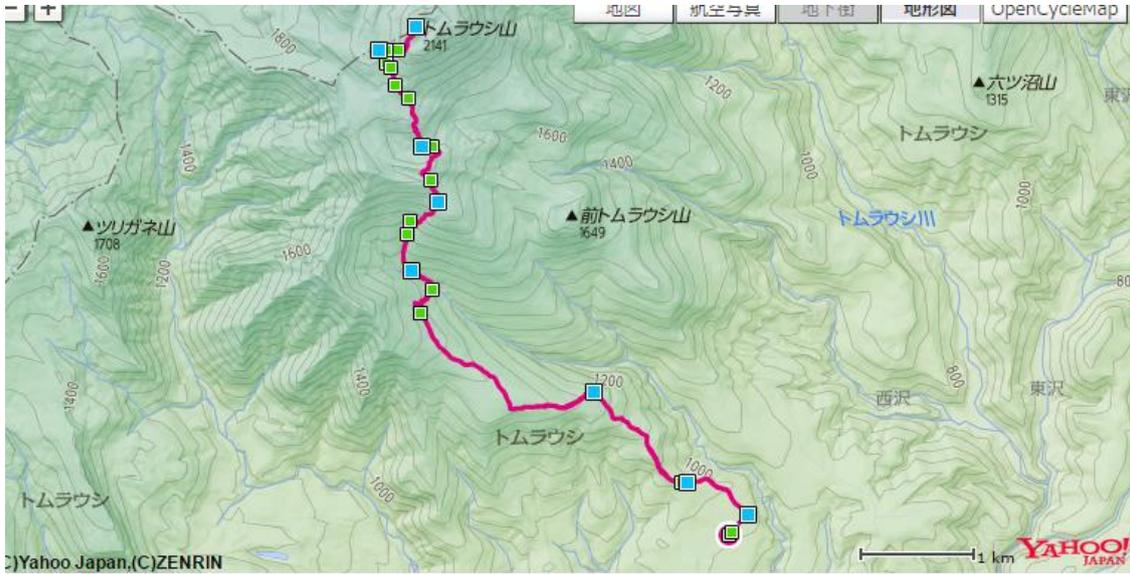
時間>約 3.5 時間 距離 185 km ETC ¥1410



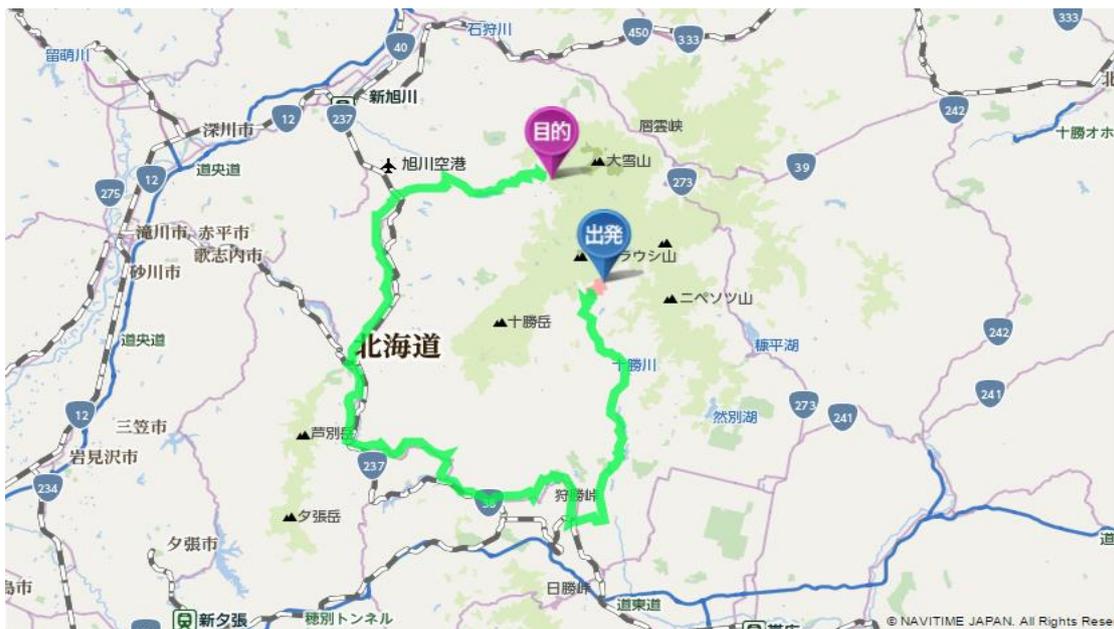
5日目 トムラウシ 2141m トムラウシ温泉短縮コース 登山&車移動 10時間

・登山ルート

温泉短縮コース 片道約 8.5 km×2 往復 17 km 6時間



・車移動 GPS>北海道上川郡東川町勇駒別旭岳温泉 旭岳温泉グランドホテル大雪  
時間>約 4時間 距離 200 km 素泊り 5000円 電話 : 0166-97-2211

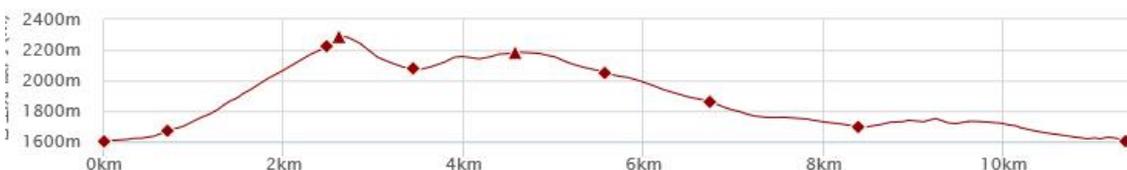


6日目 大雪山(旭岳) 2290m 旭岳温泉コース 登山&車移動 13.5時間

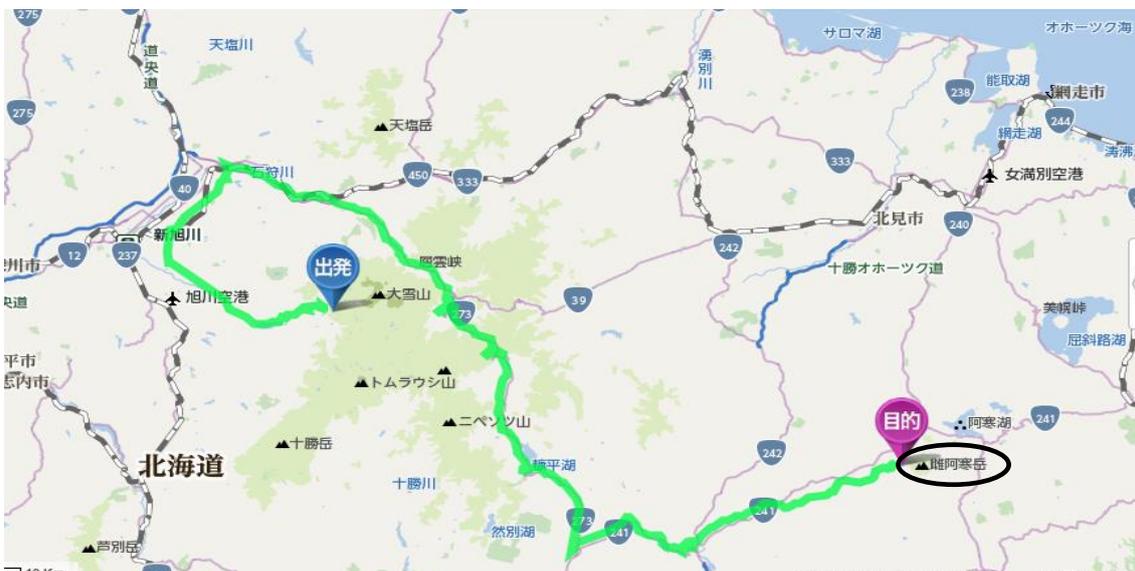
・登山ルート

旭岳温泉コース 縦走コース 12 km 8時間

ロープウェイ姿見駅～旭岳石室～金庫岩～大雪山～間宮岳分岐～間宮岳～中岳分岐～中岳温泉～居合平～姿見駅



・車移動 GPS>北海道足寄郡足寄町茂足寄 159 山の宿 野中温泉 夕朝込 8500円  
時間>5時間30分 距離 260 km 電話:01562-9-7321





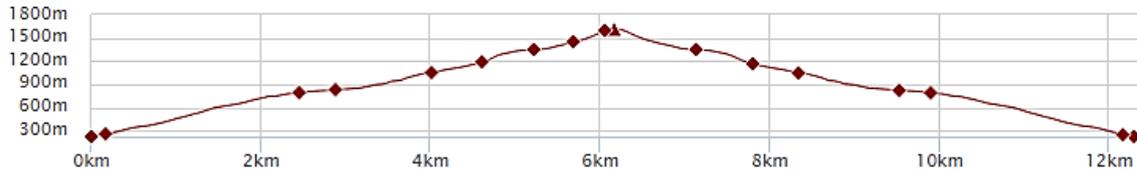


9日目 羅臼岳 1661m 岩尾別温泉コース 登山&車移動 15時間

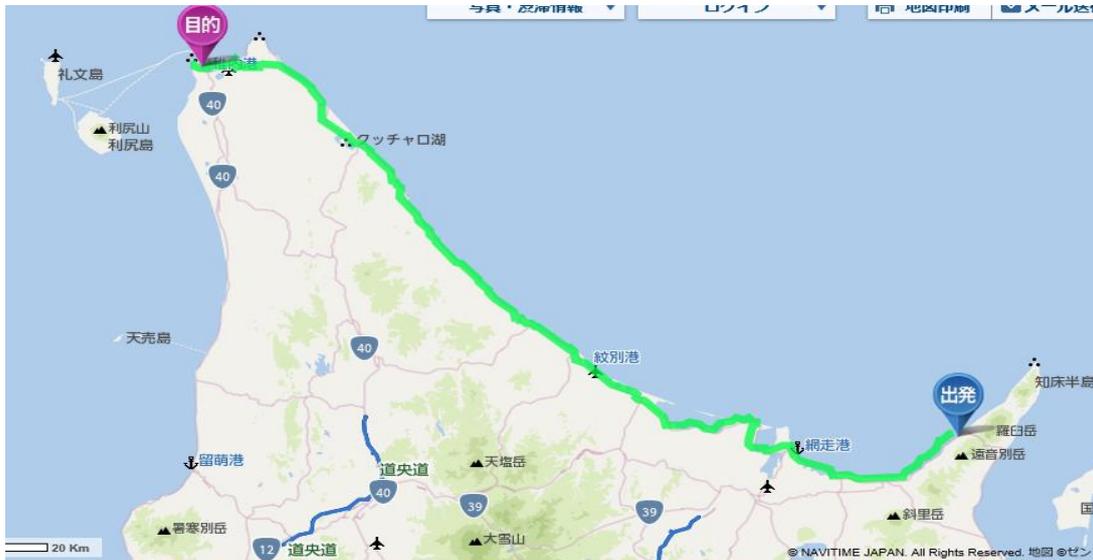
- ・登山ルート ヒグマに注意

岩尾別温泉コース 12 km 約7時間

岩尾別温泉～木下小屋～弥三吉水天場～極楽平～銀冷水天場～大沢～羅臼平～岩清水～羅臼岳山頂～ピストン



- ・車移動 GPS>北海道稚内市港 2-3-24 ホテル滝川 素泊り 5000円  
時間>8時間 距離 390 km 電話 : 0162-23-2333



10日目 利尻岳 1719m 北麓野営場コース (タクシー利用) 登山&車移動 12時間

・車移動 GPS>ハートランドフェリー(株)北海道稚内市開運2丁目7-1

【運航】行き 07:15~08:55 10:50~12:40 16:40~18:20

帰り 08:30~10:10 14:35~16:15 17:35~19:15

【運賃】1人2030円×2(2等客室)

・登山コース 鷺泊港から北麓野営場までタクシー 約12km 5時間

富士ハイヤー:0163-82-1181 往復1200円

利尻北麓野営場~第一見晴台~長官山~九合目~利尻岳北峰~ピストン

利尻島のホテル:ペンション群林風(グリーンウィンド) <http://greenwind.sakura.ne.jp/>

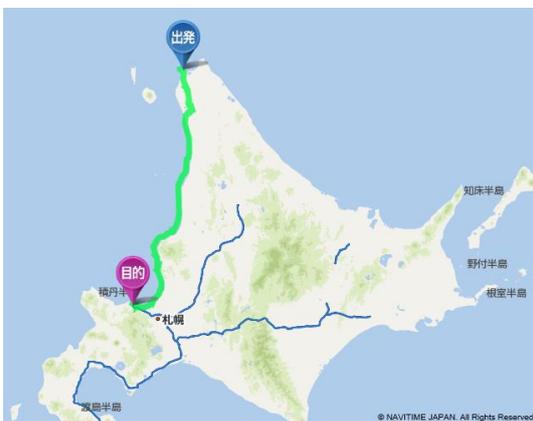
:アイランドインリシリ <http://www.rishirihotel.com/>



・車移動 GPS>勝納埠頭新日本海フェリーターミナル

時間>7時間 距離330km

23:30小樽発~21:15舞鶴着



弾丸登山で08:55着~タクシー~利尻登山4時間~14:35発~6時間で小樽港、または小樽でのんびりと過ごす。

日程に余裕を持てば、摩周湖、網走刑務所、サロマ湖、知床最北端、道内観光を取り入れて楽しむ。

# 北海道100名山9座一気登り

2017

メンバー

石野美輝郎68歳 横小路敏郎68歳 大塚賢一62歳 大倉康治57歳

日程

8/21(月)～約半月

21日は雨天決行

毎日4～5時起床

時間

横小路宅へ21日の19:30集合出発 約2時間半  
山陽道～中国道～舞鶴道(ETC3560円)

舞鶴フェリーターミナルへ(はまなす)  
舞鶴発23:50発～小樽着20:45(火)  
約20時間

行動

詳細は別誌参照

8/22(火)テン泊 (車移動1.5時間)  
小樽港から比羅夫へ移動(67km) 23時着…

半月湖野営場(テン泊)

8/23(水)テン泊 羊蹄山1893m 比羅夫コース(登山>7時間)  
半月湖から羊蹄山ピストン 後 半月湖で停泊

半月湖野営場(テン泊)

8/24(木)山荘 沙流郡平取町豊糠へ車移動(225km…6時間) 豊糠(とよめか)山荘泊  
移動途中で新千歳空港で大倉氏と合流 12:30頃予定  
豊糠(とよめか)山荘でゆっくりとする(1泊2食5000円) ☎01457-3-3568(要予約)

豊糠(とよめか)山荘泊

8/25(金)山小屋 幌尻山荘(登山>3時間内林道7km)  
豊糠山荘からシャトルバス(往復4000円) 3便目に乗車(9:30発)

幌尻山荘泊 素泊1500円  
シュラフ、マット、沢靴持参

8/26(土)テン泊 幌尻岳2052m 振内コース(登山&車移動8時間)  
幌尻山荘で沢靴デポで幌尻岳&戸蔭別岳(とったべつ)周回～幌尻山荘～渡渉～シャトルバス17時で  
豊糠山荘まで 後 車移動150km…3時間…吹上温泉

吹上温泉野営場(テン泊)

8/27(日)テン泊 十勝岳2077m 硫黄沢コース(登山&車移動9.5時間)ETC1410円  
十勝岳ピストン(11km)後、車移動185km…3.5時間…トムラウシ温泉…

トムラウシ野営場(テン泊)

8/28(月)テン泊 トムラウシ山2141m 短縮コース(登山&車移動10時間)  
トムラウシピストン…短縮コース8.5km×2…6時間後、旭岳温泉へ移動(200km)  
旭岳温泉グランドホテル(素泊5000円 ☎0166-97-2211 要予約)

旭岳青少年野営場(テン泊)

8/29(火)テン泊 大雪山2290m 旭岳温泉コース(ヌタクカムウシュペ)(旭岳)(登山&車移動13.5時間)  
ロープウェイ(往復2800円)姿見駅から朝日岳～間宮岳～中岳分岐～中岳温泉～  
裾合(すそあい)平～姿見駅周回 後 足寄へ車移動(260km…5.5時間)  
山の宿 野中温泉(素泊4800円 ☎01562-9-7321 要予約)

オンネトー国設野営場(テン泊)

8/30(水)テン泊 雌阿寒岳1499m 阿寒岳周回コース(ポンマリネシリ)(登山&車移動7.5時間)  
阿寒岳周回(5時間) 後 斜里郡清里へ車移動(110km…2.5時間)  
清岳荘(素泊のみ1540円 ☎0152-25-4111 要予約)

清里オートキャンプ場(テン泊)

8/31(木)テン泊 斜里岳1547m 清岳荘コース(オンネプリ)(登山&車移動8.5時間)  
清岳荘コース12km…7時間 後 斜里町ウトロへ車移動(60km…1.5時間)  
ウトロで買出し、洗濯

ウトロ国設知床野営場(テン泊)

9/1(金)テン泊 羅臼岳1661m 岩尾別温泉コース(登山&車移動15時間)  
岩尾別温泉コース12km…7時間 ヒグマに注意 稚内へ車移動390km…8時間  
ホテル滝川 素泊5000円 ☎0162-2-2333 要予約

稚内森林公園キャンプ場(テン泊)

9/2(土)テン泊 利尻岳1719m 鷺泊コース(登山12km…5時間) 稚内森林公園キャンプ場(テン泊)  
ハートランドフェリー(稚内7:15発～鷺泊8:55着)4280円(往復) ☎0162-23-3780  
タクシー(鷺泊～北麓野営場)2660円(往復)片道10分  
登山口9時半スタート…下山14時半…14:35鷺泊発に乗れば、そのまま小樽(330km…6時間)  
23:30発のフェリーで舞鶴まで可能だが、無理をしないで稚内でゆっくりとして次の日に  
オロロン街道をのんびりとドライブしたい 稚内港～小樽港 365km ETC4020円

9/3(日)小樽港23:30発～新日本海フェリー～9/4(月)舞鶴港21:15着

ロング日程なので計画通りにはまず不可能…余裕をもって摩周湖、網走刑務所、サロマ湖、最北端、  
その他道内観光を取り入れて時間的に余裕をもって北海道を楽しみたいと思う

移動中はコンビニやスーパーがとても少ないので、有れば止まって随時仕入れる

共同装備

テント3人用×2(大塚、大倉)、モンベル8人用テント(大塚)、銀マット4枚(大塚)  
コールマンアルミテーブル1(大塚)、折り畳みテーブル1(大塚)、ケトル1(大塚)  
テント用LEDランタン2(大塚)、ガス6缶(石野、横小路)、バーナー2(石野、横小路)

個人装備

シュラフ、シュラフカバー、マット、山専ボトル、ジフィーズ5、カップ麺5、行動水、行動食  
ザック25L、ツェルト、沢靴(幌尻岳用)、レインウェア、着替え、薄手袋、帽子、サングラス  
免許証、健康保険証、携帯トイレ10ヶ  
その他>個人用着替え、行動着、軽登山靴、トレペ1巻き、折り畳み傘

費用>多めに見積もって15万円ほど(復路のフェリー代含む)

土砂降り雨の時などは温泉宿で停泊

アタック宿泊地

<b>羊蹄山</b>	宿泊地	半月湖野営場
		6月中旬～10月下旬
	住所	北海道虻田郡倶知安町字高嶺
	電話	0136-22-1121
	金額	無料
	設備	水道、炊事場、トイレ、照明設備
	温泉	ホテルようてい日帰り入浴22:00まで。 銭湯東湯21:30まで(月・金定休)

<b>幌尻岳</b>	宿泊地	とよぬか山荘
		2日目 幌尻山荘 素泊まり1500円
	住所	北海道沙流郡平取町豊糠
	電話	01457-3-3568
	金額	一泊二食5000円
	設備	男女別、各浴室シャワー4台、浴槽、コインランドリー
	温泉	びらとり温泉ゆから 420円 北海道沙流郡平取町二風谷92-6
宿泊予備	二風谷オートキャンプ場>北海道沙流郡平取町字二風谷92番地38 1人500円 バンガロー3000円 オートキャンプ場からとよぬか山荘まで30km 40分 予約:01457-2-3807 PM1:00～PM5:00まで	

<b>十勝岳</b>	宿泊地	白銀荘前キャンプ場	バンガロー、キャビンあり
		キャンプ場の標高は既に1000mを越えている	
	住所	北海道空知郡上富良野町吹上温泉	
	電話	0167-45-4126	
	金額	テント1張り500円	
	設備	トイレ、水取り場	
	温泉	白銀荘で源泉かけ流しの温泉 600円 徒歩圏内には有名な吹上温泉の露天混浴風呂(無料)もある	

<b>トムラウシ</b>	宿泊地	トムラウシ自然休養林野営場
		トムラウシ温泉東大雪荘より約700m
	住所	北海道上川郡新得町字屈足トムラウシ
	電話	国民宿舎東大雪荘 TEL/0156-65-3021
	金額	一人250円
	設備	炊事場/有 トイレ/有
	温泉	トムラウシ温泉 500円

<b>大雪山</b>	宿泊地	旭岳青少年野営場
		標高1000m 大雪山国立公園旭岳の麓に広がる温泉郷にある
	住所	〒071-1472 北海道上川郡東川町勇駒別
	電話	0166-97-2544
	金額	一人500円 テント1張り550円
	設備	水洗トイレ、炊事場
	温泉	旭川旭岳温泉 湯元 湧駒荘 北海道上川郡東川町勇駒別旭岳温泉

<b>斜里岳</b>	宿泊地	清里オートキャンプ場	コテージ4人用5000円
		焼酎工場など清里の見どころにも近く、温泉施設もそばにある。	
	住所	清里町字江南807番地	
	電話	0152-25-3500	
	金額	大人500円	
	設備	コインランドリー、シャワー	
	温泉	道の駅パスタランドさつる 380円 北海道斜里郡清里町字神威1071-4	

<b>雌阿寒岳</b>	宿泊地	オンネトー国設野営場
		傾斜のある林間の草地(火山灰地)
	住所	北海道足寄郡足寄町茂足寄国有林内
	電話	0156-25-2141
	金額	大人350円
	設備	水洗トイレ、炊事場、車乗り入れ不可
	温泉	野中温泉350円 オンネトー温泉景福350円

<b>羅臼岳</b>	宿泊地	国設知床野営場	ケビン4人用3200円
		ウトロ市街中心部より1Km	
	住所	北海道斜里郡斜里町ウトロ香川	
	電話	0152-24-2722	
	金額	大人400円	
	設備	ゴミ箱、水洗トイレ、バイオトイレ、コインランドリー	
	温泉	夕陽台の湯 500円 北海道斜里郡斜里町ウトロ東429	

<b>利尻岳</b>	宿泊地	稚内森林公園キャンプ場
		駐車場からテントサイトまで50m
	住所	〒097-0022 北海道稚内市中央1丁目
	電話	0162-23-6476
	金額	無料
	設備	コインランドリー>スキル稚内店 稚内市港2丁目1-27
	温泉	天然温泉港の湯 750円 北海道稚内市港1-6-28副港市場2F 温泉棟

北海道 100 名山 9 座一気登り  
紀行文

2017 年

8 月 21 日～9 月 5 日

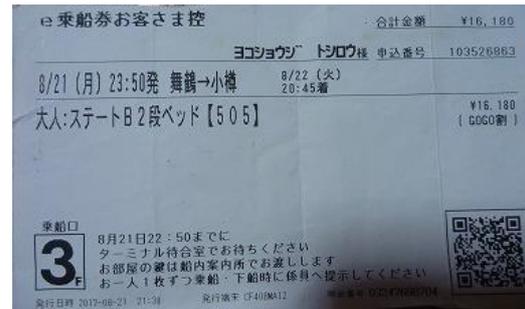
15 泊 17 日

大塚賢一

## 8/21 (月) 晴 舞鶴港へ

大荷物を日産テラノに積み込んで横小路宅より 150 kmの約 2 時間移動で、舞鶴港 23 : 50 発…小樽港 20 : 45 の約 20 時間の船旅である。

長旅なので 1 等客室で船旅を楽しむ。



## 8/22 (火) 晴 船上

7 : 30 起床 ゆったりと朝食&朝風呂。

航路も日本海沿岸の佐渡沖なのでテレビもスマホも電波が届かない。 フェリー内の感想は神戸からの阪九フェリーやサンフラワーのほうが風呂も大きく、食堂での食べ物も遥かに多い。 昼食は船内でジンギスカン料理を頂く。 午後からは催しでビンゴ大会や神戸出身の綺麗なお姉さんのオペラ民謡があったりして時間が流れていく。 船上からは水平線が見えるだけで海も穏やかなのであまり船の揺れも感じない。



ジンギスカン料理で乾杯



素晴らしいソプラノの美声

## 20 : 30 小樽港着 小雨

小樽から国道 393 号を約 70 kmの南下でニセコの比羅夫へ移動。

さすがに国道は街頭もなく真っ暗…おまけに峠越えではガスも濃くなり視界が不安定になる。 案の定、峠の下りで県外ナンバーの車が横転していた…同じフェリーに乗っていた乗客だろうか…。 運転もより一層慎重になり比羅夫の半月湖畔のキャンプ場へ 21 : 30 にたどり着く。 テントは三張りのみ、我々も三人用ゴアテントをヘッドライトを頼りに小雨降る中で素早く張って就寝体制に入る。 トイレ、炊事場もありの無料キャンプ場だ。

8/23 (水) 晴 後志羊蹄山 1893mアタック 距離 13.2 km 累積標高差 2246m

羊蹄山はコニーデ型の独立峰で、「蝦夷富士」と呼ばれるにふさわしい美しさと風格を持っている。1898mの標高は北海道では大雪山と日高山脈に次ぐ高さである。

倶知安、真狩、喜茂別、京極の東西南北からの登山道がある。我々はその北西側からの倶知安コースからアタックである。片道 6.6 kmの往復 13.2 kmコースだ。



朝食を食べてアタック準備にかかる

5:00 起床…朝食を食べて6時半アタック開始。テントは乾かすためにそのままに設置。

登山口 370m…最初は比較的緩やかな樹林帯の中をハイキング気分だが、20~30分も歩いたら急に斜度もきつくなりだし右ヘトラバースすると風穴に着く。高山植物も豊富である。

その後ジグザクに登り始めていくと2合目だ。ここからはひたすらに急斜面を登りエゾ松やダケカンバの林を抜けると高度も1000mになり所々で展望も素晴らしくニセコアンヌプリやチセヌプリの山容が見えだす…うごめく雲海に浮遊している



1400m付近からダケカンバのトンネル帯（大雪が降るために雪の重みで直立できない）をくぐり抜けて登っていくのだが、外の景色も見えずに足元も小砂利で不安定でストレスが溜まるころだ。1700m付近からやっとティンバーラインとなり外の景色も見えてきて羊蹄山の懐に入ってきた…素晴らしい中庭である。北山を経由してお鉢を少し右に巻くと山頂 1893mに到着だ。



下山は時計回りのお鉢巡りで、ゴツゴツした岩を巻いたり登ったりしながら真狩登山口分岐にたどり着くと、9 合目の羊蹄山避難小屋が見えてくる…いったん下がるので立ち寄らずに旧小屋跡を經由して比羅夫下山口へと向かう。



山頂のカルデラ



高山植物も豊富に咲いている



9 合目避難小屋



遠くから見たら人が座っているように見える

羊蹄山は独立峰なので植物の垂直分布を見るのに適しているために「後志羊蹄山の高山植物帯」として、倶知安コースと山頂部の植物群落が天然記念物に指定されている。

下りは昨日の降雨でゴロタ石に付着したコケで滑り、Wストックがなければ大転びだっただろう。下山 13 時。3 人用テントもよく乾き撤収して 8 人用の大型テントを設営する。

今日はこの半月湖畔に停泊するのでニセコ駅前の温泉に入り、町へ買出しに行く。



JR ニセコ駅



おばちゃん飛び入り参加

**8/24 (木) 曇/雨 大倉氏と合流 沙流郡平取町豊糠 (豊糠山荘へ移動) 200 km**

京都や関東からきていたシニアキャンパーの人たちと朝から話が弾む。  
一人でのんびりと約3ヵ月かけて北海道を移動しているそうだ…北海道はキャンピングカーがよく似合う。



今日は大倉氏と新千歳空港で合流して、幌尻岳の拠点の一泊二食 5000 円の豊糠山荘へ向かう。



旧中学校を改造した豊糠山荘



ジンギスカン料理で乾杯

朝から降ったり止んだりの雨で額平川の増水で登山口までのシャトルバス出ないかもしれないと山荘の主人が言う。アタックの拠点となる幌尻山荘から無線が入るようだ。

案の定、早朝3時のバスが中止になって7時、9時半、12時となった。

我々は安全を考慮して9時半に予約を申し込こむことにした。

**8/25 (金) 雨/曇 幌尻山荘泊 (素泊まり 1500 円 要予約)**

2012年8月に日高山系糠平岳において合鍵を使って無断で入山した登山客が救助されるという山岳避難事故があり、それ以来ゲートは開放せず一般車両の乗り入れの約21kmのダート道はシャトルバスで運行するようになった。このダート道は運転手に聞くと今シーズンは3回ヒグマが道を横切ったと言っていた。

今日は一泊で寝具や食料と沢装備も背負うので背中のザックが重い。

9時半に豊糠山荘からシャトルバス (往復 4000 円) に1時間ほどダート道を走っていく。なるほど、こんな樹林帯の道では熊や鹿が出るのは珍しくないだろう。

10:30 最終バス停に到着。 同乗者は我々のほかに1人だけだ。

ここからも林道が約7.5 kmも続いており十分にバスが入って行けるのだが、そうすれば幌尻山荘に泊らなくて日帰りで山頂アタックは可能なので、この山を整備していく上でもここまでで止めているのだろう。

のんびりと額平川沿いの林道をフィトンチッドを身体一杯に浴びながら歩いていく。枝沢のウエンナイ沢、ニセイパオマナイ沢、一ノ沢、二ノ沢、三ノ沢からの流れ落ちる滝を眺めながら歩き約2時間ほどで林道終点の北海道取水施設にたどり着く。



奥幌尻橋、うっそうと茂った林道やオニブキ



一ノ沢の滝



取水施設



取水施設からは登山道となり幌尻山荘まで約4 kmある。

額平川渡渉地点まではトリカブトなどの高山植物を楽しみながら、アップダウンを繰り返し、川に近づくにつれてきわどいヘツリなどもあり結構楽しめる。

渡渉地点で、食料補給し、沢靴装備に変更していよいよ楽しみの渡渉が始まる。  
装備変更していると、単独の人が大きなザックを背負っていきなり股下くらいまで浸かって歩いてきた…結構深いですねえ…雨で少し増水していますから気を付けてください。



四ノ沢出合の淵からジャブジャブと入っていく。最初は少し緊張気味だが慣れてくるにつれて面白くなり別にどうってことは無くなった。まあ、いつもやっている沢登りでロープやスリングで確保するほどの事でもなく、渡渉だけなので当然のことであろう。

雑木に掛けられたピンクテープを目印に渡渉を右に左に15回ほど繰り返すのだが、別に浅瀬をダイレクトに遡行して登って行っても行けるのじゃないかと思ったが…。



左岸に五ノ沢の落ち込みが見えれば今日の宿泊場の幌尻山荘が姿を現す。

よくまあこんなところに山荘を建てたものだと感心する…当然ヘリで材料や機材を運んだのだろうが、上を見上げて樹林帯に覆われて殆ど隙間がない。

この近辺はキャンプ禁止なのでこの山荘を宿泊ベースにするしかない。  
他のルートも考えたが、渡渉こそ少ないがどのコースも超ロングコースなので途中で泊らなければ山頂アタックは出来ない。 北海道 100 名山の中でも難関と言われているゆえんであろう。



着替えを済ませてくつろぐ



トイレブースもいきとどいている

#### 8/26 (土) 晴 幌尻岳 2052mアタック

4:00 起床…4:37 スタート。

通常この時間なら近畿のほうは真っ暗なのだが、北海道は緯度が高いためにヘッドランプも要らないほどに明るいのだ。



山荘からはいきなりの急登が始まり、朝一番から心臓が悲鳴をあげる

アオモリトドマツの鬱蒼とした森の中を高度を上げて行くに従い次第に沢音が遠のいてくる。

急斜面のジグザクの繰り返りでダケカンバが目立ってくると、いきなり平坦な尾根上にたどり着く、戸蔭別岳 1959m、北戸蔭別岳 1912mの素晴らしい稜線が東に見渡せる…こんな景色を見ると登りの疲れも癒される。

そこから少しの急登をすれば「命の水」の水場がある…ここで朝食タイムをとる。



戸鶯別岳 1959m、北戸鶯別岳 1912mの素晴らしい稜線



「命の水」から再び急傾斜の登りとなるが、ダケカンバ帯からハイマツ帯へと変わり次第に視界が開けてくる。

登りきるとそこは北カール壁の上…とても素晴らしい展望が劇的に眼前に飛び込んでくる。

カール壁はお花畑となってビデオや写真撮りに忙しくてなかなか前に足が進まない。

また天然のブルーベリーも見事な実を付けており喉を潤わせてもらう。



みごとなお花畑



天然のブルーベリー

素晴らしい稜線だ

カール底を眼下に見ながら壁上を半周するようにして頂上へと向かう。  
南に遠く新冠富士 1667m、イドンナップ岳 1752mや中部日高の山々が視界に入りだす、右手から新冠川からのコース道標が現れると、山頂は目鼻の距離だ。

7:00 幌尻岳 2052m山頂着 気温 5度 風速 10m

山頂は礫地で遮るものはないので 360 度の大パノラマの展望だが、気温の 5 度で風もきつくじっとしていれば震えがくるので早々にウインドヤッケを着込む。



一等三角点のカムイエクウチカウシ山 1979m



幌尻岳山頂 2052m

下山は、来た道を引き返すピストンルート。  
再び素晴らしい北カールを右手に見下ろしながらのお花畑の散策道を過ぎてハイマツ帯、  
ダケカンバ帯、シラビソ帯と植生の変化を見ながら急斜面をを駆使しながら滑らないよう  
に下っていく。



素晴らしい北カール



新冠コースの向こうには幌尻湖



さらば素晴らしき幌尻岳



ハイマツ帯のややこしい下り

9:00 幌尻山荘へ下山。 約4時間半の行程であった。

シャトルバスの迎えが17時なので時間もたつぷりとあるので、山荘前でコーヒータイムを決め込んでマッタリとする。

今日は3時のシャトルバスも運行しているので日帰りピストン組の猛者も数人出合った。



無事に一番乗りで下山



コーヒータイムでまったりだ



バス停留所

再び渡渉を繰り返しながら、シャトルバスの停留所までの12kmをのんびり歩いていく。

昨日よりも水量が減っていて快適そのものだ。

18:00 豊糠山荘へ到着。この山荘でもう一泊して明日朝早朝から十勝岳へアタック計画に変更した。

帰ってからは沢装備の洗濯や明日の行動着や行動食の詰め直しやらで時間があつと言う間に過ぎていく。

## 8/27(日) 晴 上富良野方面へ車移動後、十勝岳 2077mアタック

4:00 起床…昨夜に作ってもらったおにぎりを詰め込んで上富良野方面への150kmの車移動だ。

十勝連峰は歴とした現役の活火山である。連峰の盟主十勝岳へのコースのうち、前十勝コースは1985年に閉鎖されたままである。生きた火の山として活発に噴煙を上げる火口、荒々しく削ぎ取られた崩壊斜面、狭い稜線の織りなす山容は魅力にあふれているのだが、さてさて下界は晴れていても山の上はわからない。

7:30 登山口到着…日曜日でも重なってか人気の山でもあり、すでに50台以上は止められる駐車場は一杯である。四輪駆動ならではの砂礫にかろうじて駐車できた。

駐車場はすごく整備されていてその人気の頻度がわかる…休憩所もすごく大きくトイレ設備も水洗でいきとどいている。



150 kmを北上…北富良野へ



7:40 望岳台スタート



望岳台から白銀荘の分岐と美瑛岳方面への雲ノ平分岐を経て火山礫や溶岩泥流跡のゆったりとした登山道を歩いていく。この辺りだけのハイキングもお花畑いっぱいので飽きを感じさせないので小さな子供連れの家族連れが多い。



溶岩泥流跡



火山礫のゆったりの登山道

登山口方面は広大な牧場や白金温泉方面は晴れていてよく見渡せるのだが、今から登っていく十勝岳方面は避難小屋より上は濃いガスに覆われて、まるで白の世界だ。



避難小屋上部は濃いガスの中だ



入山禁止の前十勝岳



ガス中は視界 10mほどで強風だ

避難小屋からは、足元くらいしか見えない視界でマーキングを見落とさないように慎重に稜線まで上がっていくが、十勝岳直下の火山灰の稜線台地ではものすごい強風で身体が持って行かれそうになる。それでも同じように登っていく登山者が絶えない。

ここからは、昭和噴火口、すり鉢火口、グランド火口、等が見えるのだが何も見えずに時折噴煙の硫黄が鼻や目をつき痛みさえ感じる・・・まるで五里霧中である。



山頂からの眺望はとても素晴らしいらしく、連峰の山々はもちろんのこと大雪山系や日高山系が遠くに浮かんで登山者が大歓声を上げるだろうと言われているが、今日の十勝岳は微笑んでくれなかった。

山頂は気温 8 度、風速 30m・・・体感気温マイナス 20℃位で早々に下山だ。

ホワイトワールドの中を足元のマーキングを見落とさないように火山礫のゴツゴツとした岩肌を慎重に下山して、避難小屋へ逃げ込んで小休止だ。

ここまで来れば下界は晴れているので何も問題はない。

12:20 下山。次は計画変更して大雪山（旭岳）のキャンプ場への車移動 80 km。

14:30 旭岳青少年野営場着。早速にテント設営を済ませて、家内道具を運ぶ。



旭岳温泉の湧駒荘の天然アルカリ源泉かけ流し温泉でマッタリして疲れを癒して、ロープウェイ駅の食堂で山菜カレー、ジャンボ餃子で一杯。ホテルは数軒建っているのだがレストランやコンビニが全くないのだ。



白樺に囲まれた源泉かけ流し温泉



## 8/28 (月) 晴 大雪山(旭岳 2290m)アタック 北海道最高峰

北海道の屋根といわれる大雪山国立公園は総面積 23 万 ha で日本最大の原始の姿を今なおとどめる山岳国立公園である。北海道の中央部に位置し、北から北大雪、表大雪(旭岳から黒岳、白雲岳、間宮岳の外輪から高根ヶ原や忠別岳から南端のトムラウシ山までの山域)、東大雪(ニペツツ山から石狩連峰、尻別湖周辺の展望山、南ペトウトル山の山域)、十勝連峰(オプタケシケ山から南西に延びる 2000m級の山々が連なり富良野岳までの山域)の 4 つの山域に分けられて親しみを込めてよばれている。大雪山とは一座の山に与えられ「世界遺産」にの声も高まっている。

- 4 : 00 起床 朝食 テント撤収
- 6 : 30 始発ロープウェイで 10 分…姿見駅へ。
- 6 : 45 登山開始

駅から姿見ノ池までの遊歩道を高山植物を眺めながらのハイクだ。  
姿見ノ池近くにある旭岳石室は非常時のみの使用可能で夏場はほとんど利用しない。  
池から上は火山礫ばかりで高山植物は殆ど皆無である。ここからは急登のジグザクが続き、左の火口からジェット機の音のような噴煙が勢いよく噴き出しているが十勝岳のように目鼻には気にはならない。



ロープウェイ駅から旭岳



姿見ノ池に映りこむ旭岳





ニセ金庫岩から金庫岩辺りの急登を過ぎると山頂はすぐ目の前



約1時間半で山頂 2290m到着

山頂からは、360度の大パノラマで次回行きたい縦走路が手に取るように繋がっている。南に高根ヶ原、忠別岳、そして明日の予定であるトムラウシ山までの山容が見渡せその向こうの十勝連峰までうっすらと見える。

また、北には北鎮岳、比布岳、当麻岳が、そして外輪の間宮岳、中岳、裾合平の縦走路も見える。

噴煙の硫黄分で木々も生息できず下草だけなのでヒグマがいれば一目瞭然にわかる。パノラマを堪能してゆっくりと下山・・・。



山頂より遠景



姿見ノ池付近のお花畑



9:40 下山・・・10:00のロープウェイで駐車場へ・・・

さあ、これから南へ250kmの移動でトムラウシ温泉の大雪荘までドライブだ。

途中・・・富良野名物のラベンダー畑に立ち寄り、気持ちも癒される。



かんのファーム



15:40 トムラウシ温泉大雪荘着。

ここは、トムラウシ山をアタックするのにワンディで出来るので 100 名山ピークハンターは、殆どがこの温泉をベースに宿泊している。 予定では近くのキャンプ泊であったが今晚から雨模様で明日は一日雨なのでここに 2 泊の予約を入れる



川そのものが温泉となっている



今回の初めての旅館でゆっくり、まったりと美味しい料理とビールで乾杯。

また久しぶりの畳の上での就寝で、明日も停泊なのでゆっくりと眠れた。

## 8/29 (火) 雨 連泊 休養日

昨夜から雨が降り続いていて、他の登山者も同じように連泊を決め込んでいる。

朝から温泉に浸かって疲れを癒し、読書やテレビで時間を過ごす。

天気予報は明日は朝から快晴の予報だ。

午後から明日の9km先の登山口までの偵察に・・・。



登山口はバイオトイレも設置されていて、駐車場も広く申し分ないのだが、入り口にいきなりのヒグマ情報だ。



この日計報が入る…幌尻岳の額平川で広島山岳会8人パーティの3名が増水により流されて溺死。

3人はザイルで繋がれて身動きが取れなかった…地元新聞の一面に載っていた。

同じような遠征組として心忍びない思いだ。 沢の鉄則としてコンティニアスは非常に危険だ。

## 8/30 (水) 快晴 トムラウシ山 2141mアタック

トムラウシ山は、大雪山国立公園のほぼ中央、表大雪と十勝連峰の中間に位置する。遠隔地にあることや裾合いに広がる複雑な地形、さらにそれらを鮮やかに彩る高山植物の自然美の妙から「大雪の奥座敷」と呼ばれている。

4:00 起床 超ロングコースの20kmだ。

ホテルを4時半に出発し、登山口スタートが5時過ぎ。すでに10台以上の車が止まっている。

いきなりとんでもない泥濘道に滑って転ばないようにダブルストックを駆使しながらも先行者をどんどん追い抜いていく。 これでもかという程の泥沼の道…両側は背丈ほどあ

る笹のためにストレスも増長してくる。 少し下りきってコマドリ沢の出会いに着くころにはやっと視界も開けてきてお花畑街道となり、疲れた気持ちも癒される。

しかし、ここは親子ヒグマの生息地でもあるので気が抜けない。



ぬかるんで視界のない泥ヌタ道



カムイ天上（旧ルートとの出会い）



まだまだ向こうだ



コマドリ沢分岐からはお花畑



コマドリ沢上部でトム平への岩礫地をトラバースして登りきると広い台地の前トム平に  
でる・・・途中でブルーベリーをついばみ乍ら、今までの泥濘道とは全く違った開けた光  
景だ。



**前トム平**

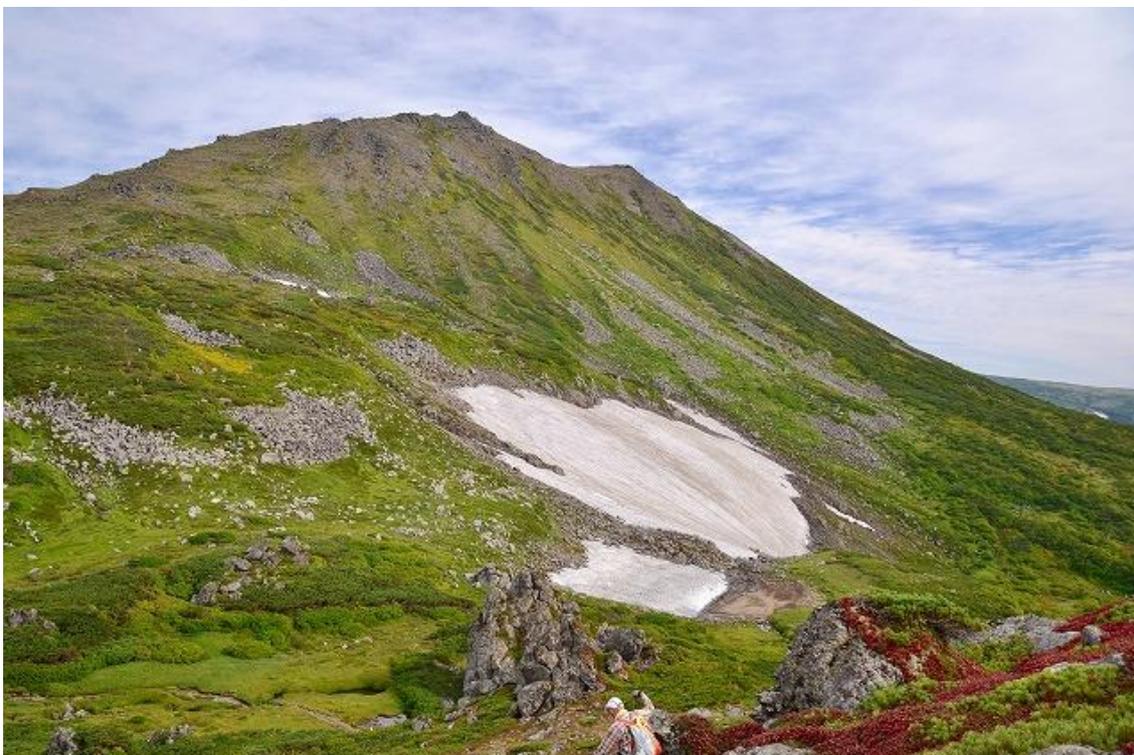


**ケルンの向こうがトムラウシ山だ**

前トム平から一段上がり、ケルンが目印の岩礫地を歩いていくと迫力のあるトムラウシ  
山のその岩峰が目に飛び込んでくる。

岩礫からパンケトムラウシ川源頭を渡り大きな岩稜帯を乗り越えていくと、その下に見  
える天上の楽園が眼前に…誰もが声を出し感銘するところだ。

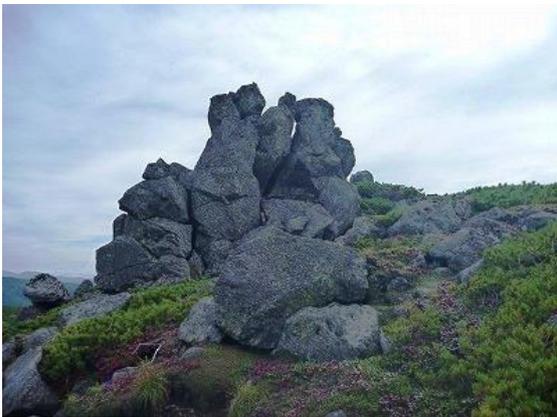
その昔、アイヌの人たちはここを楽園として住み着いていたのであろう…こんなに高い  
標高でも沢水が沸きだし観る者を飽きさせない。



**素晴らしき天上の楽園**



トムラウシ公園の周りには守り神のような巨岩奇岩が立ち並ぶ



トムラウシ公園の別名はカムイミンタラ(神々の遊ぶ庭)と呼ばれる

トムラウシ山の人気のひとつには、北側に日本庭園、ロックガーデン、南麓にはトムラウシ公園、東に遠くには五色ヶ原の大草原、西の裾合いに流れる銀杏ヶ原…東西南北どこをとっても他の山域に引けを取らない大自然の極致が織りなしていることもあるだろう。

山頂へは十勝連峰縦走路の十字路交差点…南沼キャンプ指定地である…携帯トイレブースが設置されている。こんな所でキャンプをしたら天上の神々と対話ができるだろう。





9 : 20 トムラウシ山  
2141m山頂着。

山頂からは、昨日に登った旭岳への縦走コースも遠望できる。

天気恵まれて 360 度の  
大パノラマである。

トムラウシ山は遠望すると王冠のような形に見えてどっしりとした美しい山だが、山頂は火口底を挟んだ双耳峰で前衛峰(ジャンダルム)などもあるために複雑な地形をしている。



下山は往路を引き返すが、とにかく長丁場なので歩きにくいので慎重に下っていく。泥濘道も強い日差しで幾分かましになっていた。



12 : 45 下山

大雪荘の温泉で疲れを癒すが、支配人がとんでもない速さだと驚いていた。

さあ、明日の雌阿寒岳の拠点地…オンネトーキャンプ地までの 160 km の移動だ。

18:00 オンネト一國設野営場着



日が暮れるも早いので素早くテントを設営し、小宴会後 21 時就寝。

### 8/31 (木) 晴 雌阿寒岳 1499m アタック

北海道 100 名山も残すは 4 座となり、この東部山域の羅臼岳を主峰とする知床連峰、斜里岳、雄阿寒岳、雌阿寒岳は千島火山帯に属し北海道北端の利尻山は那須火山帯に属する。このうち今も火山活動が活発なのは知床硫黄山と雌阿寒岳である。

4:30 起床

テントを素早く撤収して 6 時過ぎに入山。

雌阿寒温泉からオンネト一への縦走コースからオンネト一湖を半周して戻りたいところだが、明日の羅臼岳へのアタックがあるので、ここはオンネト一登山口のピストンとする。

登り始めはアカエゾマツの林立する林道コースであるが、昨年の台風の影響か、はたまた雷が落ちたのかそこらじゅうに大木が見事に折れて倒木しているのが目立つ。

小さな沢を渡ると歩きにくい丸木の階段がしばらく続く、アカエゾマツの根が地表に縦横無尽に走りこれまた歩きにくい…この山は屋久島同様の岩山で根が下へ伸びないのだろうか。





7合目を過ぎると樹林帯から飛び出し、右眼前方に大きな阿寒富士1475mの黒々しい姿に圧倒される。

それにしても真っ黒の砂礫の山といってもいいだろう…正直あまり登る気にならない。

ここから砂礫の急斜面を登って行くと、左前

方から時折白煙か水蒸気かと思われるものが吹き上げてきて鼻を突く。



火口壁の砂礫を反時計回りに登って行くと、外輪に着く。もの凄い勢いでジェット機の噴射のような轟音が耳に飛び込んでくる。2006年3月21日に小噴火のあった新噴気口が見えてくる。ここは立ち入り禁止のトラロープが張ってあるが硫黄で白黒ロープに変身している。

火口の淵を形成する奇岩、巨岩群が生成時そのままの姿でジャンダルムのように立ち並び、火口底まで垂直に落ちこんでいる大地の燃えた容姿はなんとも凄まじいものである。地球上のものとは思えないほどである。



この世の光景とは思えない凄まじさだ



右前方が雄阿寒富士



煙に舞う阿寒富士







途中、雲が多いが何とか取れてきて斜里岳の全容が見えてきた

15:00 知床のウトロキャンプ場着

ロッジ1棟4人用が3200円で泊まれるのでテント設営はやめにした。

歩いてすぐのところに温泉とコインランドリーがあるので、身体も服も洗濯です。

またここはオホーツク海に沈む夕日が有名な場所で観光客も多い。そしてすぐ近くの公園に野生の鹿が走り回っている。



温泉からオホーツク海が見える

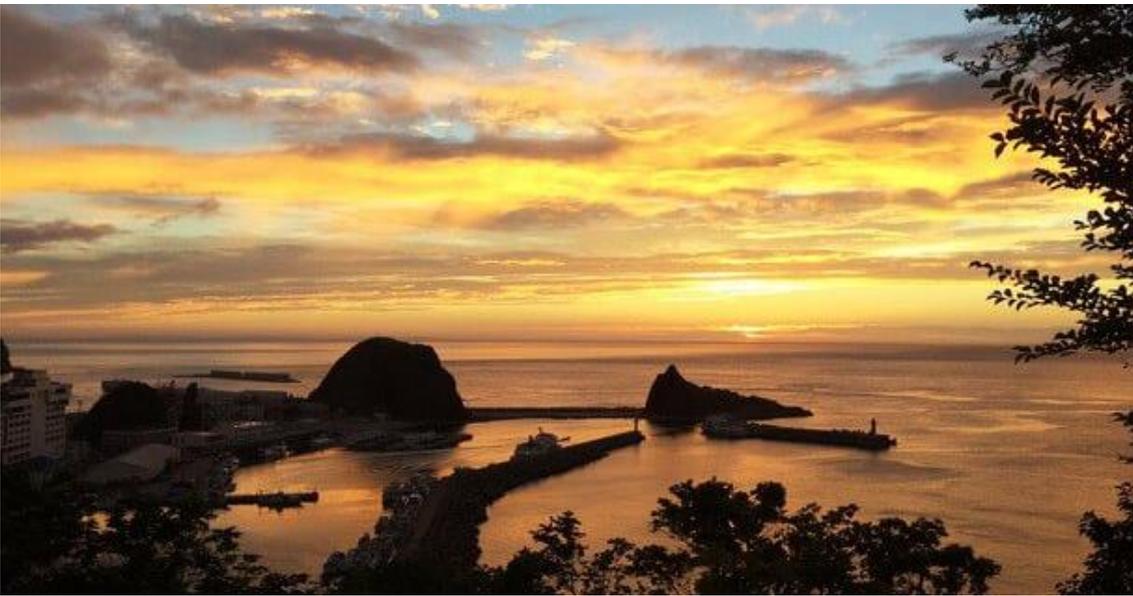


野生のシカが走り回っている



緑豊かなキャンプ場・・・ロッジで快適な夜を迎える





刻一刻を変化していく素晴らしい光景

9/1 (金) 晴/曇 羅臼岳 1661mアタック 北海道随一のヒグマの生息地

羅臼岳は知床連峰の最高峰である。溶岩ドームが盛り上がり迫力のある奇岩、巨岩の積み重なった山頂部が形成された釣鐘型となっている。

羅臼岳の名は羅臼川にあることからついた。アイヌ語で「チャチャ・ヌプリ…親父の山」という。

4:00 起床

約 15 km離れた岩尾別温泉 (閉館) へ移動する。

車は 10 数台くらい止まっている。少し歩くと素泊まり 2500 円の木下小屋がある。

登山口はそのすぐ横から続いている。

登山届箱の横にヒグマの出没日が克明に書かれている・・・出ませんようにと、羅臼の山の神に祈りをささげて入山。



いきなり針広交樹林帯のジグザグ急登が始まる。その傍らにはキバナシャクナゲが斜面を覆い尽くしている…6月の花の咲くころはとても綺麗だろうなあ、と想像する。

見晴らしのよい尾根上 560mに着くころにはひと汗かいて身体も慣れてくる。



キバナシャクナゲが覆い尽くす



標高 560m

高山植物も豊富で写真を撮りながらやや平行移動的に歩いていくと、弥三吉の水場が出てくる・・・ここもキャンプ地になっているがヒクマに要注意だ。



ここから極楽平となり、ほぼ平行移動で高度が稼げない。この辺り一帯はダケカンバの巨木が生い茂っているが全てが直立に立っていないくグニャグニャと曲りながらも頑張っている・・・冬季の雪の積もり方が想像できるというものだ。



仙人坂、羽衣峠などの平坦部と急坂を繰り返していくと2番目の水場の銀冷水にでるが、ここの水場は枯れていた。

火山礫、砂礫の1ノ岩場、2ノ岩場を登っていくと羅臼平にでる。ここには木下弥三吉のレリーフがありテント場になっていて、ヒクマよけに鉄製の箱（フードロッカー）が設置されている。



レリーフ



フードロッカー

極楽平にて



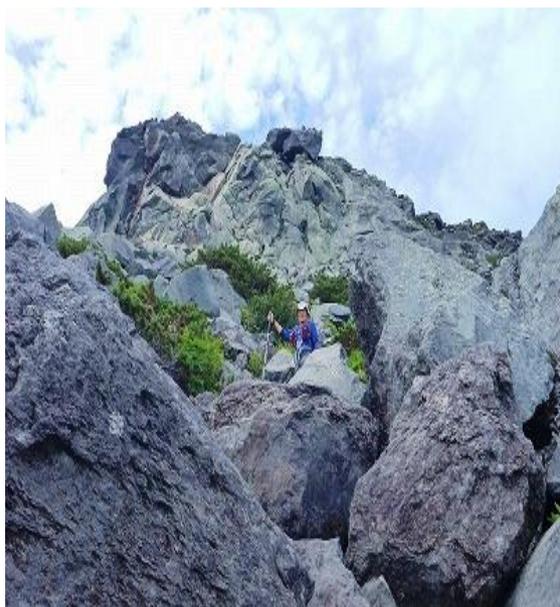
極楽平からは右に折れてハイマツのトンネルをしばらく、くぐっていくとガスに漂う荒々しい羅臼岳の全容が見え隠れして異様な雰囲気である。



ハイマツのトンネル帯



ハイマツのトンネル帯で思わぬ収穫、コケモモだ。  
酸っぱいリンゴのような味で口の中でクエン酸が放出する。



ガスに漂う羅臼岳の全容が段々見えだしてきた

9:15 羅臼岳 1661m山頂着

いつの間にか先行者を追い抜いていたようで、山頂は今日の一番乗りだった。山頂からは、360度の大パノラマとはいかず、霧がベールを張りだし千島列島がかすかに見え隠れするのみだ。右眼下には北方領土4島の歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島が見えるのだが、残念！。これを楽しみに羅臼岳に登ってきたのだが・・・。



下山は往路を帰るのでいつものように脇目も振らずに飛ぶように降りて行く。

12:00 無事に下山

次に明日の行程の斜里岳のふもとのキャンプ場へ移動するのだが、温泉に入ってからウトロの街で海鮮丼にありつく。途中寄り道でオシンコシンの滝の見学



をしてキャンプ場へ向かう。



15:00 清里オートキャンプ場着。 ロッジ1棟4人部屋 5000円



このキャンプ場もシーズンが終わりのようで、ものすごく広いのに3組しか利用していない。

炊事場、トイレもとてもきれいにいきとどいている。

この夜も残念ながら雲が多くて星は見えなかった。

## 9/2 (土) 曇 斜里岳 1547mアタック

斜里岳は知床半島と阿寒の山々を結ぶ脊梁山系の主峰で富士山（型の独立峰に近い美しい山容をなしている。裾野には清里平野、斜里平野の豊かな酪農、畑作地帯を育て緑なす幾何学模様の裾野にそびえる山容はアイヌ名でオンネヌプリ…大きな山・親の山という。

4:00 起床

12 kmの道のりを斜里岳登山口へと車を走らす。

6:00 清岳荘登山口スタート

車はやはり10台ほどだが、大型バスのツアー客が20数名降りてきた。

彼らよりも早く出発しようと、早朝から忙しい。



スタートは清岳荘



斜里岳の山の神に無事を祈る

最初は林道歩きで、登山道に入るといきなり沢の渡渉が始まるが増水していないので飛び石を頼りに靴を濡らさずに右へ左へと仙人洞を過ぎて、下二段の旧道と新道の出会いで登りに旧道を使うのだが、滝、滝、滝の連続である。

それぞれに名前がついており、下から水連の滝、羽衣の滝、万丈の滝、見晴の滝、七重の滝、竜神の滝、雲華の滝と次から次に飽きさせないほど面白い。こんな事なら沢靴を仕込んでくればよかったと後悔先に立たずである。 ここは夏場はとても面白いだろう。



上二段の神の門を過ぎると沢水も最初の一滴となり、ミヤマハンノキ、ダケカンバのトンネルが続き、やがてガレ場の急斜面の胸突八丁となる。



新道方面の稜線を眺めながらジグザグにガレ場を登っていくと、馬の背の稜線に着く。斜里平野から吹き渡ってきた緑の匂いのする風は遠くオホーツク海の香りも乗せてきて汗をかいた身体に気持ちがいい。



馬の背からは山頂の溶岩ドームが遥か向こうに見えるが、さほどたいした登りでもなく斜里岳の山の神の祠を過ぎてもう少し急登を頑張れば山頂に飛び出す。



斜里岳の山の神



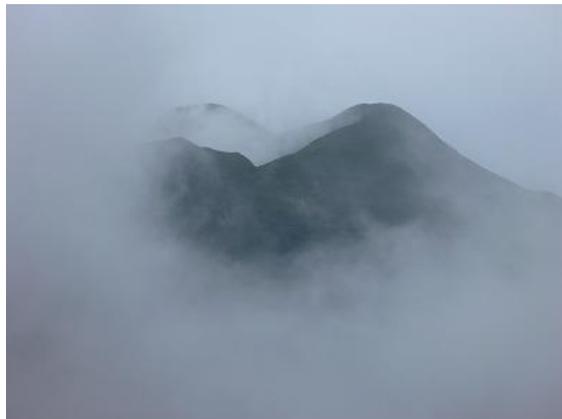
このガレ場を登れば山頂だ



8:00 斜里岳 1547m山頂着 山頂からは微かだが北方領土やオホーツクの海が…



下山は上二段より熊見峠経由で山頂稜線を眺めながらの尾根歩きを楽しむ。



熊見峠を過ぎると今度は稜線からの激下り・・・山頂稜線は切りに包まれて幽玄の世界に変わっていく。



10:15 無事に下山。

道の駅パパスランドの温泉で汗を流す。なんとここは岡崎朋美の出生の地だったのだ。



移動途中、小清水原生花園に立ち寄りオホーツクの海を眺めながら花園を散策。



JRの原生花園駅があるとは驚きだ



網走の小清水原生花園



続いて、北見の街へ・・・

大倉氏が仕事の都合で明日に帰らねばならないので女満別空港近くの街のビジネスホテル（クラウンヒルズ北見）に予約をとった。

最も魅力的な利尻山へ登頂できないのはとても残念である。



今宵は彼の7座の登頂を祝っての祝杯を焼き肉店で・・・乾杯

9/3 (日) 曇 稚内まで 380 kmを移動後、利尻島へ・・・

4:30 起床 今日はずっと出来るのだが、4時過ぎに起きる身体になっている。

6時半に朝食を済ませて、荷物の整理をして女満別空港で大倉氏と別れる。



サロマ湖畔を過ぎて長い移動が始まる。 北海道の道は町中を除けばどの道も真っ直ぐな直線道路が多いのだが、このオホーツク街道もその通りで右にオホーツクの海を眺めながら・・・休憩を挟みながら稚内フェリーターミナルまでの移動である。



ナンバー無しでも堂々と巨大トレーラーが走る



船型の道の駅で昼食



青い海、青い空、槍のような岩峰、緑の草原、白い雲、ゆったりと時間が流れる





優雅に回る



稚内最北端にある教養の碑



九人の乙女の碑



稚内フェリーターミナル

16:40 稚内港からハートランドフェリーで利尻島の鴛泊港へ・・・



船上から明日にアタックの利尻山が見えるが、山頂付近は濃いガスに覆われている。やはりこの時期は山頂到着は朝8時までには上があれば360°の視界が得られるのだろう・・・明日は暗い内からの行動と決める。



船上より、礼文島と利尻島

18:20 鴛泊港着

タクシーでキャンプ場(ゆ〜に)に向かう・・・ワンメーター640円

「ゆ〜に」とはアイヌ語で「お湯のあるところ」の意味を持つ。

ここから登山口までは30分ほど歩かねばならない。



すでに暗くなっているので、今夜もコテージ泊だ・・・1棟5000円。

9/4(月) 快晴 利尻山1719mアタック

利尻島はアイヌ語で「リイ・シリ」⇒高い島の意味。

その名の通り最北の日本海から天空をつらぬく利尻山の鋭角が北斗を指す島である。

利尻島の島自体が利尻山なのである。

利尻山は円錐形のコニーデ型の休火山で、その端麗な山容は利尻富士と愛称される。山麓は周囲63kmの裾野で針葉樹を中心とする豊かな森林帯が海岸線まで広がっているが上部は火山岩の崩壊が激しく、急峻な岩壁や鋭い岩稜を形成して迫力ある景観を醸し出している。登頂に当たっては様々に海に足を浸してから海拔0mから山頂1719mのSea to Summitも人気であるが、我々はその逆の登ったあとに山頂から海に向かうことにする。

3:30 起床

昨夜は久しぶりの満天の星空に恵まれた。

4:00 この利尻島は大型動物のヒグマやシカがいないから暗い内からの行動も安心だ。  
真っ暗の舗装道路をヘッドライトを点けてウォーミングがてらにテクテクと…約25分で北麓キャンプ場の登山口到着。よく見ればここもロッジがあったんだと後悔先に立たず。

4:30 登山口スタート



5:00 4合目で朝食…そろそろ朝日が出てきた リシリトラノオ

10分ほど歩くと最北端の100名水の甘露泉水に着くのだが、まだ暗いので帰りについておくことにする。

5合目の「雷鳥の道標」から振り返れば、礼文島が見えだした。



5合目の上部あたりまでは針葉樹林の中を歩きミヤマハンノキやダケカンバのトンネルも出てくるが、ここでも冬の豪雪さを感じさせる…木々が真っ直ぐに立っていない。



**ダケカンバ帯のトンネル**

6合目からは北陵の尾根に取り付き急傾斜のジグザグで7合目からは胸突き八丁で、登っても登っても同じような道で少々ダレてくる。



**6合目からの礼文島方面の眺望**

8合目の長官山に着くと展望が開けて眼前にド〜〜と利尻山のその雄大が姿が目に飛び込んでくる。 ワクワクする瞬間だ。



**待っているよ〜、今から行くからなあ・・・と挨拶をする**



### 8合目の長官山からの眺望

8合目から少し下り気味に歩くと、利尻山避難小屋に着く。中を覗けば立派な小屋であるが、夏場は宿泊はしないでの注意書だ。携帯トイレブースも完備されている。



ここから再び急登になりほどなく9合目に到着する。ここも携帯トイレブースがある。



### 9合目からの眺望

ここからが正念場の上部はガレ場のうえに雪解けや豪雨時の流水や多くの登山者の往来で登山道が深くえぐられている箇所がある…いずれはこの登山道も崩壊してしまうだろう。



こんな場所にでも可憐に咲き誇っている高山植物たち



7 : 50 利尻山 1719m山頂着



山頂よりの絶景



利尻山頂は南北の双耳で成り立ち山頂神社は北方（1719m）に鎮座し、ここを利尻山頂としている。本峰は南方（1721m）なのだが崩壊が激しく危険なのでロープで通行禁止となっている。

10：30 無事に下山

早朝に寄れなかった甘露泉水に立ち寄り最北端の美味しい湧水を飲んで喉をうるおす。



甘露泉水は利尻山の降水や雪解け水が地下にしみ込み、長い年月をかけてゆっくりと育まれた湧水で、1985年（昭和60年）には環境省により名水百選に選定。**名水百選の中でも、日本最北端の名水として知られている。**

利尻島で最もよく見られる玄武岩質の溶岩には丸みを帯びた細かい穴が無数に空いていて、山頂付近にもたらされた雪や雨は、この無数の穴を通して火山内部に浸透し、その水が再び山麓の低地に顔を出すまでには20年から30年かかると言われている。

こうして長い年月をかけてろ過され、地表に湧き出した水が甘露泉水。火山性の地質をゆっくりと浸透することで、ミネラルたっぷりの上質な水となり、味わいはまろやかで「甘露泉水」という名前は、飲んだ誰もが口をそろえて「甘い」と言うことが由来だと言われている。

フェリーの出港時間が14：35なので時間もたっぷりとあり、天気も快晴で秋のような爽やかさなのでここからシラカバやダケカンバに囲まれた遊歩道を歩いて、約1時間をのんびりと海まで下っていく。





さらば利尻島・・・

北海道 100 名山 9 座 一気  
登りも今日で完結。

今夕は稚内に着いて  
から稚内森林公園でキ  
ャンプを張って、明日は  
のんびりとオロロン街  
道を南下して小樽まで  
の長いドライブだ。

9/5 (火) 快晴 小樽フェリーターミナルまでの 350 km の移動



朝起きるとテントの周りに野生のシカが朝食の下草を食んでいる…大自然を感じる



時間もあるので、最北端  
の宗谷岬へドライブする。



広大な牧場に牛たちも大  
喜びしているようだ

オロロン街道を休憩を挟みながらも十分な時間があるので札幌の中心部が見渡せる藻岩山へ登る。ここから見る札幌市内の大都会の絶景は今までの大自然と全く違う景観だ。

標高 531m の藻岩山（もいわやま）は、アイヌ語では「インカルシベ（いつも上って見張りをするところ）」と言われていた。幕末の探検家、松浦武四郎は「後方羊蹄日誌」の中で、「藻岩山は、アイヌにとって物見をする山であると同時に、尊い神の山だった。」と書き残している。山頂からは札幌の街並みや日本海石狩湾、増毛暑寒別岳までの大パノラマを望める。



ここからの札幌市内の夜景は最高だろうと思いネットで拾ってみたが想像した通りだ



小樽と言えば寿司でしょう…舌鼓



23 : 30 小樽港発～21 : 05 舞鶴港着

長旅お疲れさんでした～

北海道を振り返って・・・

今回の北海道のロング山行はそれほど辛いものではなく毎日身体もとても快調でした。やはり無理をしない計画で、幌尻岳を除いた8座はワンディピストンにしたせいもあったのでしょう。

山行中も全く体重の変化もなく、帰宅してからも普段通りでした。

頼もしく信頼できる仲間と共に常に行動を共にしていたし、体力・技術もほぼ同レベルで、下界の食事を食べられたことが一番のストレスの溜まらなかった理由だと思っています。

昨年の日本の3000m峰27座の単独一筆書きの徒歩縦断に比べると、とても楽しい山行でした。帰宅すれば体重10kg減、体脂肪も6%に落ち込んでしまい、現状の体に戻すのに2カ月はかかっていました。

今回の100名山9座の中で一番印象に残っているのは、やはりトムラウシ山2141mでしょうね。

ヒグマの多いこの山の頂にたどり着くまでの泥濘道・・・それを過ぎれば180°変化する別世界・・・「大雪の奥座敷」・・・「カムイミントラ（神々の遊ぶ庭）」、まさにその通りで標高2000m近くで湧水がありテント場もある。一度はのんびりとここに停泊してみたいものである。

また、北海道に来てから山行でもそうだが、キャンピングカーでの宛てのない旅をしているシニア単独プレーヤーが非常に多かったのが目についた・・・寂しくないのだろうか？

時間が許せば一度は愛妻とキャンピングカーでのんびりと北海道を旅してみたいものである。

還暦を迎えて、定年・・・シニア登録をさせてもらい今の会社にも感謝、そして素晴らしい仲間にも感謝、なにより一番理解をしてくれている妻と我がファミリーに敬愛。

日本の還暦後の平均余命は20年・・・そのうちの健康寿命は15年・・・食品にも賞味期限があるように人生にも賞味期限はある。

その健康寿命の枠の中でどれだけ多くの人生計画を立てているかによってその人の生き方が決まってくる・・・人生は何かを練って、それを実行に移してこそ面白みがある。

計画は無限にあるから人生後半は面白い。

大塚賢一

